

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

栃 木 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	烏 山 町 立 烏 山 中 学 校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	2	14	25
生徒数	109	127	128	10	374	

研究の概要

1. 研究主題

「自ら学び、確かな学力を身に付ける生徒の育成」～個に応じた指導の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

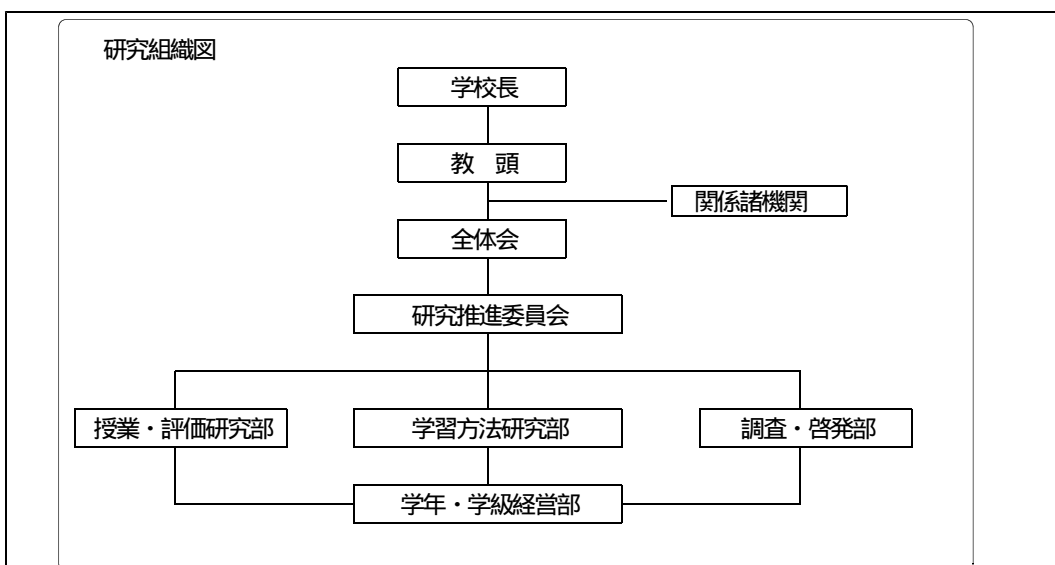
全学年，全教科
 学力の向上を目指す教育は全人的な教育であるにとらえ，本研究主題にせまるため，特に個に応じた指導の工夫改善を図るためには学校教育の全課程において総合的に研究の推進を図ることが必要であるという観点から，全学年，全教科を対象に研究を実施することとした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ： 個に応じた指導の在り方を探る～より効果的な少人数指導，習熟度別指導の工夫改善を目指して～</p> <p>研究の見通し 学力のとらえ方に対し共通理解を図り，課題発見，課題解決に主眼をおいた授業を展開できれば，「自ら学ぶ力」を培い伸ばすことができるであろう。 きめ細かな指導の展開を目指した少人数指導，習熟度別指導が実践できれば，生徒に確かな学力を身に付けさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 各教科における基礎・基本の確かな定着を図るための教材の工夫，指導内容，指導方法の工夫改善を図る。 生徒の基本的な生活能力の向上を目指した諸活動の推進を図る。 ガイダンスやカウンセリング等，生徒の学習環境の側面を支援する諸活動の推進を図る。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ： 個に応じた指導の在り方を探る～生徒の学力の評価を生かした指導の工夫改善を目指して～</p> <p>研究の見通し 生徒の学力の評価を適切に看取り，それを指導に生かすことができれば，個に応じたきめ細かな指導の展開が図れるであろう。 生徒の自己評価能力を育成することができれば，自分の学力を知り，自分にあった学習方法を見つけたり学習内容を選択したりすることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 各教科・領域において，それぞれの実態に即した評価内容，評価方法について工夫改善を図る。 評価を指導に生かす手だてを，実践研究を通して探る。 生徒の自己評価能力を育成する手だてを，実践研究を通して探る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



各研究部における主な研究内容は、次のとおりである。

授業・評価研究部

各教科における基礎・基本の確かな定着を図るための教材の工夫，指導方法，指導内容に関する研究の推進を図る。

学習方法研究部

生徒の基本的な生活能力の向上を目指した諸活動の推進を図る。

ガイダンスやカウンセリング等，生徒の学習環境を側面から支援する諸活動の推進を図る。

調査・啓発部

フロンティア事業に関わる諸調査を行い，結果を分析して，他の研究部との連携を図りながらより深い研究の推進を図る。

生徒，保護者，地域，教職員に対する啓発活動の推進を図る。

学年・学級研究部

フロンティア事業に関わる諸活動に対し，学年経営，学級経営の立場から諸活動の推進を側面から支援し，支え合い励まし合える学年，学級づくりを図る。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

今年度，研究授業で習熟度別指導（数学）を行ったクラスを対象にアンケート調査を実施したところ，習熟度別指導に対して大変よい，どんどんやって欲しいと答えた生徒，まあまあよい，できる範囲でやって欲しいと答えた生徒がクラス全体の9割以上に上り，ほとんどの生徒がTTによる指導や少人数指導，習熟度別指導に肯定的であり，期待していることがわかった。

今まではあまり実施しなかった国語科や社会科におけるTTによる指導に対して実践研究を進めた結果，調べ学習やグループ単位で活動する場面において，TTによる指導を効果的に活用できることがわかった。

TTによる指導展開の中で，生徒をよく看取ることができるようになった。

研究授業アンケート（集計結果）

先日実施した数学の研究授業についてアンケート調査をします。

1 今回の授業で、1つのクラスを2つに分けて授業を行いました。このような授業についてどう思いますか。

大変よい。どんどんやってほしい。	44.8%
まあまあよい。できる範囲でやってほしい。	48.3%
どちらともいえない。	6.9%
あまりよいとは思わない。あまりやらなくてもよい。	0%
大変よくない。やってほしくない。	0%

2 今回の授業で、よかったと思う点を書いてください。

・授業がわからない人のペースに合わせてくれた（じゅくり）	・協力し合えた（じゅくり）
・自分のペースで問題を解くことができた（どんどん）	・時間が早く感じた（じゅくり）
・わからないことを先生によく教えてもらった（じゅくり）	・先生に聞きやすい（どんどん）
・難しい問題をどんどんやらせてもらった（どんどん）	・焦らずにできた（じゅくり）
・果てなくプリントがあって、全部終わらずという意欲がわいた（どんどん）	
・早い人に合わせないで自分のスピードでできた（じゅくり）	

3 今回の授業で、改善した方がよいと思う点を書いてください。

・じゅくりコースの人数をもう少し少なくする（じゅくり）	
・3つくらいのクラスにした方がよい（じゅくり）	・進み方をもう少し早く（じゅくり）
・1つの教室でやった方がよい（じゅくり）	・もっと先生を種やした方がよい（じゅくり）

4 もし機会があればこれからも少人数学習をしたいと考えていますが、あなたが考えた「やってほしい教科」があれば、書いてください。（複数回答）

・国語	1人。	・音楽	1人。	・社会	6人。	・美術	1人。	・数学	12人
・保健	3人。	・理科	9人。	・授業	4人。	・英語	9人。	・無回答	3人

ご協力ありがとうございました。

2. 今後の課題

生徒のアンケート調査の中で、今年度T Tによる指導を実施しなかった教科に関しても、T Tによる指導や少人数指導を実施して欲しいという声が上がっている。検討していきたい。

T Tによる指導や少人数指導を実施する際、単元レベルや学期レベルで指導計画や評価計画を練っておく必要がある。また、チームを組む教員が常に打ち合わせを密にとる必要があり、時間の確保が課題である。

T Tによる指導や少人数指導、習熟度別指導を実施したからといって必ずしも効果があがるとは限らないことがわかった。したがってこれらの指導体制を組む際には、同時に指導方法の工夫改善や指導技術の習得が必要である。それらを探ることが今後の課題である。

前述したように、T Tによる指導の中で生徒を看取することができるようになってきたので、それを工夫して指導に生かす手だてを考えていきたい。

学力把握のための学校としての取組

校内における定期試験の実施（全学年一斉、国語、社会、数学、理科、英語）

1学期中間（5月）、1学期期末（7月）、2学期中間（10月）

2学期期末（12月）、学年末（1、2月）

知能検査の実施（1年、4月）

既習学習定着シートを利用した学力検査の実施

（1、2年生は1、3月の2回実施、

3年生は5、7、9、10、11、1月の6回実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

地域の学力向上推進協議会における中間報告（16年1月実施）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無